

上海交通大学訪問記

武井義和

2012年3月4日(日)から7日(水)までの日程で、馬場毅東亜同文書院大学記念センター長と武井が上海交通大学へ出張した。近年記念センターと交流を深めている同大学の校史研究室を訪問するためであり、目的は去年4月に新しく記念センター長に就任された馬場教授の先方へのご挨拶と、今後の両組織の交流のあり方についての議論、そして校史研究室が所蔵する資料の閲覧などにあった。

初日は日曜日にも拘わらず、欧七斤准教授が飛行場まで車で迎えに来られ、夜は我々が滞在するホテルがある徐家・の上海交通大学キャンパスからほど近い場所で歓迎会が行われ、葉敦平名誉教授、盛懿教授をはじめ陳泓教授、毛杏雲教授、欧七斤准教授、孫萍研究員が勢ぞろいして歓迎して下さいました。

2日目午前中は閔行キャンパスへ移動し、今後の交流のあり方について意見交換が行われた。紙幅の関係でその全てを記すことはできないが、馬場センター長からは今後も校史研究室と継続して交流し、東亜同文書院研究に関して協力関係を進めること、文科省の私立大学戦略的形基盤支援事業への応募の紹介と採択された場合の積極的な参加要請、そして校史研究室が霞山会との共同研究の成果として2006年に刊行した『資料選集』の価値の高さに言及した上で、同書の続編の編集などを要望として出された。それに対して李建強副学長からは研究交流の進展を期待するお言葉を頂き、盛教授からは記念センターが文科省に申請しているプロジェクトに期待しており、仮に採択されなくても『資料選集』の続編編集や記念センターとの研究交流を行っていきたいというご意見を頂いた。また校史研究室は档案館と合併したという紹介があった。そのほかにも活発な意見交換が行われたが、両組織の交流の継続について前

向きな話し合いが行われた。午後は『資料選集』に収録されている資料の閲覧と、校史展示室の見学を行った。

3日目は陳教授と欧准教授の随行のもとで上海档案館で東亜同文書院に関する資料の閲覧と収集を行った。多くが電子化されており調査に便利だった。当然のことながら中国側の資料であるが、日本国内には所蔵されていないものだけに貴重な機会を得た。

帰りの飛行場への車中で見送りに来た欧准教授から、中国で各大学の校史研究室の大会があるが、そのような時に愛大も参加しないかというお誘いがあった。

記念センターは2010年9月と2011年1月に同様に上海交通大学校史研究室を訪問したが、今回は諸々の関係で滞在日数がこれまでよりも若干短く、出張者も馬場記念センター長と私の2人であった。しかしながら、校史研究室の先生方は親切に対応して下さいると共に様々な便宜を図って下さったので何も問題なく、またしっかりと交流を行うことができた。今後、両機関の交流のさらなる発展を期待すると共に、校史研究室の先生方にお礼申し上げる次第である。



李副学長(中央)、葉名誉教授(左2)、盛教授(右4)、馬場記念センター長(左4)をはじめとする校史研究室の先生方と。